

将来構想2016提言		2025年度までの総括	課題	ロードマップ											
					2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	
事業活動に関する提案															
国際活動の促進、支援、計画・実施の核となる	国際活動の促進、支援、計画・実施の核となる				(Torino)	Asuncion	Congress	New Dehli	Tondheim	Fukuoka	Congress				
	中長期的視野に立った国際会議の企画						Salzburg				Seoul				
		Rock Dynamics Summit（2019年沖縄，ISRM Specialized） YSRM & REIF2019（2019年沖縄，ISRM Specialized） RMEGV2021（2021年福岡，ISRM Specialized） Japan-Korea Joint Symposium on Rock Engineering 2023（2024年東京） CouFrac2024（2024年京都， ISRM Specialized） WBRM2025（2025年沖縄， ISRM Specialized） ARMS14（2026年福岡，ISRM International）開催計画と体制の検討	将来，日本でISRM Congress 開催を検討 次の日韓ジョイントシンポの開催（2028年以降）		RMEGV		J-K_JointSymp	CouFrac	WBRM		J-K_JointSymp(案)				
	ISRM の活動への積極的参画と活動支援									ARMS14					
	日本からの積極的な参加 会員の成果をコミッションの成果に反映 新しいコミッションの立ち上げ	Franklin Lecture2018 (H. Yasuhara) Rocha Medal2021 (Y. Yokota) Rocha Medal2024 (K. Sawayama) ISRM Science Achievement Award2024 (W. Lin) Commission on Bio-Rock Mechanics (H. Matsubara (chairperson), D. Asahina, T. Mukunoki) (2023-2027) Commission on Coupled Thermal-Hydro-Mechanical-Chemical Processes in Fractured Rock（H. Yasuhara）(2023-2027) Commission on Crustal stress and Earthquake（T. Ito）(2023-2027) Commission on Deep Mining（A.Sainoki）(2023-2027) Commission on Discontinuous Deformation Analysis (Y. Ohnishi (founder), T. Koyama (-2022), G. Chen（2023-2027）) Commission on Earthquake Motion in Rock Engineering（N. Iwata (chairperson), K. Tsuda, A. Sainoki, Ö. Aydan）(2023-2027) Commission on Mechanics of Ancient Rock Structures（T. Seiki (chairperson), Ö. Aydan, N. Tokashiki）(2023-2027) Commission on Planetary Rock Mechanics (D. Asahina) (2023-2027) Commission on Radioactive Waste Disposal（Y. Yasuhaha）(2023-2027) Commission on Rock Dynamics（K. Uenishi）(2023-2027) ISRM Young Members' Seminar (YMS) Committee（D. Fukuda and R. Hashimoto）	達成。継続が必要。		Rochaメダル			Rochaメダル Science Achievement Award							
	一体的かつ発展的な国内事業活動を展開する														
	岩の力学に関する統一シンポジウムの実施														
	毎年開催。 「総合的な岩盤科学技術の創生と体系化」に向け，各学会単独ではカバーできないテーマや緊急性・発展性の高いテーマを取り上げるなどの工夫。組織4団体以外の岩の力学に関係する他学会と連携。	土木学会と岩盤工学基礎講座等で協働 学際的な分野として，バイオロック国際WSを琉球大で開催（2025年度） 岩の力学国内シンポジウムの継続的な開催（2017年，2021年，2025年）	おおむね達成		岩盤工学基礎講座共催	岩盤工学基礎講座共催		岩盤工学基礎講座共催	岩盤工学基礎講座共催 バイオロック国際WS						
	岩の力学の新しい研究分野の創生														
	新分野創生検討委員会（仮称）の設立 国際リニアコライダー計画 近年の異常気象に起因する大規模自然災害 新たに生じる環境・エネルギーの課題	活性化企画特別委員会を新設（2021年度），方向性を議論 ILC研究企画特別委員会での活動（2017～2024年度） バイオロックメカニクス研究企画特別委員会の新設（2025年度～）	達成		←活性化企画特別委員会→										
賛助会員グループの連合会活動への参画															
賛助会員会議運営企画特別委員会の新設（2017年度）⇒その後常設委員会に格上げ（2020年度）		達成													
若手会員に対する「未来のリーダープログラム」															
	岩の力学に関する若手研究者会議の継続的な開催，2014年・2015年・2017年1月及び12月・2021年1月	継続開催													
合理的な運営のための組織改善を図る															
常務理事会															
中長期的視野に立ったISRM 国際活動の企画と指揮、ISRM シンポジウムほか国際交流企画と指揮	上記「中長期的視野に立った国際会議の企画」「ISRM の活動への積極的参画と活動支援」を実施	継続実施													
国際技術委員会															
ISRM における会員のコミッション活動の支援の充実を図り，日本からのコミッションの提案の企画と調整を新たな検討項目とする。	・若手技術者の海外活動支援を継続的に実施（5万円×4名/年度） ・国際会議の定期的開催を支援（YSRM2019，RMEGV2021，CouFrac2024，WBRM2025，ARMS2026） ・ISRM Commission活動，Suggested Method改訂への支援を実施	・若手技術者の海外活動支援については助成額の調整も考慮しながら継続的に実施 ・バイオロックを含め，ISRM Commissionに日本からの活動が増えているので，積極的に支援。ARMS14でのWSの開催等。		若手技術者の海外活動支援・現状の運用を継続する	岩盤工学に関する国内技術の国際化に関する支援・ISRM Commission活動の支援・岩の力学ニュースへのCommission活動の報告依頼	基準類の国際化と広報・水圧破砕法に関するISRM Suggested Methodの改訂を日本主導で進める（数年内）	CouFrac2024	バイオロック国際WS	国際会議誘致の支援，若手技術者の海外活動支援・10年おきに誘致（ARMS: 2026年）		国際会議誘致の支援，若手技術者の海外活動支援・10年おきに誘致（YSRM：2029or 2031年）				
ジャーナル編集委員会															
論文編集委員会と名称を改め，従来のオンラインジャーナルの編集発行に加えて，国際・国内シンポジウムの論文集の編集を実施，あるいは，支援する。	・電子ジャーナル委員会からジャーナル編集委員会に名称変更を行い，学術ジャーナルの位置づけをより明確化 ・投稿規定の改定と整備を行い，オープンアクセスジャーナルであることを明確に定義 ・国際シンポジウムの論文を会議論文というカテゴリーで電子ジャーナルに掲載できるように規程を変更し，2023年度日韓ジョイントシンポジウムの論文を第20巻に掲載	論文投稿数の増加を継続的に図っていく			他の国際ジャーナルでのSpecial issueの発刊	投稿規定の改定と整備 オープンアクセスの明文化	日韓ジョイントシンポジウム論文集を特集号として掲載 ジャーナル編集委員会に改名 EBSCOデータベースでの収録				関連する国際シンポジウム論文集を特集号として掲載				

	表彰委員会																			
	従来の論文賞，技術賞，フロンティア賞に加え新しい賞の検討		・2016年度よりJSRMの博士論文賞を新設し，その受賞者をISRMのRocha Medalへ推薦：2024年に澤山和貴氏(九州大)がRocha Medal受賞 ・2022年度よりJSRMの技術賞受賞者をJohn Hudson Rock Engineering Awardへ推薦開始 ・2023年度よりJSRMの表彰応募者の推移を確認するとともに，応募数を増やすための方策やISRM Awardとの対応を念頭に置いた新しい賞の創設を検討 ・2025年度よりJSRMのフロンティア賞を若手技術者賞へ変更し，その受賞者をISRMのYoung Rock Engineer Awardへ推薦		達成 ISRM の各 Award に対応した賞の創設および継続を検討		国内 JSRM		論文賞・技術賞・フロンティア賞・博士論文賞		各賞応募数を増やすための検討実施／JSRMの賞受賞者へISRMの各賞への応募のための道筋を作る／賛助会員会議との連携・所属4学会との連携／各賞の権威付けを高める		各賞応募数を増やすための検討の実施／4学会における論文集への招待論文制度，学会参加費の割引など		各賞応募数を増やすための方策の実施／前年度までに検討した方策を実行し，その効果を検証する		各賞応募数を増やすための方策の実施／新たな方策の検討と実施			
	ISRM のRocha Medal, Franklin Lecture, Müller Award に対して日本からの推薦を計画的に実施する．						ISRM		ISRM Müller Award・John Hudson Rock Engineering Award・ISRM Science Achievement Award・ISRM Young Rock Engineer Award・Rocha Medal		博士論文賞→Rocha Medal 技術賞→John Hudson Rock Engineering Award		ISRM関連の各種 若手技術者賞→シンポジウムと Young Rock Engineer Award							
							目標				JSRM各賞への応募数がゼロとにならないこと。		JSRM各賞への応募数がゼロとにならないこと。		JSRM各賞への応募数がゼロとにならないこと。 ISRMの各賞への応募が行えること。					
	広報委員会																			
	編集委員会とRockNet委員会を統合して広報委員会（仮称）とし，広報という観点から両者が連携して活動する．		・編集委員会とRockNet委員会を統合し，2024年度に新たに広報委員会をスタート ・広報委員会の担務として，新たに岩盤工学基礎講座を設け，講座の企画・運営方策を検討 ・RockNet Japanのホームページをリニューアルし，コンテンツの整備を実施		・岩の力学ニュース，ホームページ，RockNetメールのコンテンツの更なる充実を図る． ・岩盤工学基礎講座を通じ，若手を主なターゲットとして，教育普及活動の充実を図る．		編集委員会		オンライン会議の推進		編集・出版体制の検討									
							広報委員会統合の検討・RockNet委員会との協議		広報委員会への移行↓											
	なお，岩の力学ニュースの編集発行，および，ロックネット運営は，それぞれ部会として実施する．						Rock Net 委員会		内容充実検討（他の委員会の委員にもホームページ更新方法とマニュアル共有，提言や報告をホームページにアップし，トップページから直接アクセス，など）		リニューアル方策検討								リニューアルの実行・運用	
									RockNet委員会統合の検討・編集委員会との協議		広報委員会への移行↓									
	賛助会員会議運営委員会								広報委員会		2024年度統合		岩の力学ニュース・ホームページ・RockNetメールのコンテンツの更なる充実化検討							
												岩盤工学基礎講座を年1回開催するとともに，若手を主とした教育普及活動の充実化方策検討								
賛助会員特別会議（仮称）を新設し，賛助会員の意見を取りまとめ，学術グループと実務グループとの交流を図り，連合会の運営に関して常任理事会に直言できるようにする．		賛助会員会議運営企画特別委員会の新設（2017年度）⇒その後常設委員会に格上げ（2020年度） 賛助会員からの提言を理事会に発信		達成 賛助会員の要望の収集を今後も実施				・賛助会員アンケート実施 ・賛助会員会議開催		・賛助会員アンケート実施 ・賛助会員会議開催		・総会での技術紹介実施 ・学生との交流イベント開催 ・賛助会員会議開催		賛助会員に対するアンケートや賛助会員会議を2年に1回程度の間隔で実施し要望を収集，理事会に提言，賛助会員の技術紹介の機会として総会でのイベントを今後も開催 賛助会員と学生の交流の場の定期的開催を検討						
新分野創生検討委員会（仮称）																				
新分野創生検討委員会（仮称）を新設し，岩の力学にかかわる新しい研究分野の創生を検討し，そのために，他学会との交流，会員間の交流，協力を促進する．		活性化企画特別委員会を新設し，議論を行う バイオロックメカニクス研究企画特別委員会の新設（2025年度）		達成 継続実施																

財政改革に対する提言													
個人会員の増強と会員サービスの充実													
会員の要望を聴き，それに応じたサービスの充実		検討中		さらに会員の要望の収集を実施									
関連分野との交流を深めるためのセミナー，若手会員とシニア会員との交流の場による新たな会員層の発掘		岩盤工学基礎講座の土木学会との共催での実施											
賛助会員会議を通して，賛助会員からの意見や要望を集約し運営と活動への積極的な関与		賛助会員会議からの提言⇒総会後に賛助会員の技術紹介を実施（2023年度～），学生への賛助会員の紹介イベントを国内シンポに併せて実施（2024年度）											
新しい収入源の検討													
国際あるいは国内のシンポジウム開催		Rock Dynamics Summit/YSRM & REIF2019/RMEGV2021/CouFrac2024/WBRM2025等の国際シンポジウムの実施		ARMS14の2026年福岡での開催									
最新の情報，会員の要望に合う講習会，セミナー，講演会の開催		財政改善策として会員年会費の増額を実施											
有料コンテンツの整備		検討中											